

## 地球環境問題への提言

代表理事 安立 一郎



2007年の新しい年を迎え、おめでとうございます。会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

人類は僅か400万年ほど前に、この地球上に出現し、それ以来周囲に存在する色々な資源を活用しながら、徐々に拡大してまいりました。とくに20世紀には科学技術の発達とともに人間の活動が急速に拡大しつづけ、また人口の爆発的増加により、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代となりました。何十億年もかけて蓄積された地球上の資源が21世紀末には枯渇し、「温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨・大気—水—海洋の汚染・有害物質廃棄・生物の種の激減、森林の減少と砂漠化」等により、地球環境が悪化して、人類の先行き200年の生存さえ危ぶまれてまいりました。ここに、地球環境問題に関する主な国際会議を列記します。

1972年；ローマクラブが「成長の限界」を発表し、現在のような人口増加、工業化が続けば100年あまりの間には天然資源が枯渇し、環境は自然が許容し得る範囲を超えて悪化し、成長は限界的になると警告しています。

1972年；スウェーデンのストックホルムで「人間環境会議」が開かれ、人は尊厳と福祉を保つに足る環境で、自由・平等および十分な生活水準を享受する基本的権利を有するとともに、現在および将来の世代のため、環境を保護し改善する厳粛な責任を負うと文言されております。

1985年3月；「オゾン層の保護に関する条約」未然防止の原則に基いた、ウィーン条約が採択。

1987年；「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」が採択。

1988年6月；トロント会議（カナダ）2005年までにCO<sub>2</sub>排出量の20%削減の提案。

1989年3月；有害廃棄物の越境移動の管理等のバーゼル条約の採択。

1990年6月；ロンドンでモントリオール議定書第2回締結国際会議。

1992年6月；リオ・デ・ジャネイロ（ブラジル）で「環境と開発に関する国連会議」別名地球サミットが開かれ、180ヶ国が参加して地球環境の重要な合意がなされた。

1994年6月；パリで砂漠化防止条約の採択。

1996年6月；イスタンブールで国連人間環境会議。

1997年；「京都議定書」京都で開催され2012年には先進国全体で温室効果ガスを90年比で5.2%削減と提言された。

2006年11月；ケニアで、京都議定書・地球温暖化防止条約締結国の第2回会議が開催された。

人類存続のために、今まで地球環境の維持、良化対策が議論され、実行されつつありますが、諸悪の根源である世界人口増加の抑制については、世界全体、また国連でも国際会議が殆んど持たれていません。中国が一人っ子政策を進めてきましたが、最近では、中国全体の人口は年々増加しています。宗教・民族・政治上の問題をのりこえて、世界各国が、国連が、人間の一人一人が、この人口抑制問題にとりくみ、実施しなければ人類は生き延びることは不可能となります。あえてタブーを破って提言いたします。

最後にわがハートの会の中心的人物であった北畠代表理事代行のご逝去を心よりいたみご冥福をお祈り申し上げますと共に末永く天国からハートの会を見守って下さいますようお願い申し上げます。